

「水は大事」をわすれない

大え たか子

「もったいないことはしてはダメ」と、わたしのお母さんはよく言います。とくに水のおだぶかいはメチャクチャおこられます。でもわたしは、雨の日には空から水がふつてくるので、水はなくなるものじゃないと思っていました。

するとお母さんが、はんしん大しんさいのときの話聞かせてくれました。

「あなたとおなじ小学生だったお母さんは、地しんにあいました。その日はたべものも、のみものなかったの。じゃ口から水も出ない。だからトイレもながれないし、お風呂も入れなかった。つぎの日に水をもらえるところをさがして、いっぱいあるいたよ。水をもらうのにーじかんい上ならんで、りょう手におもい水の入ったペットボトルをもって家まで帰ったの。お風呂に入れない日が何日もつづいたよ。学校には、すむところをなくした人が

体いくがんにたくさんいたの。その人たちのためにプールの水をバケツではこんで、トイレのときにつかっていたりしたよ。校庭には雨水をためるために、バケツがたくさんならんでたよ。じゃ口からきれいな水が出るのをひたよ。もう水をくみに行くこともしなくてよくなったし、ふつうに学校に行けるようになってたの。

わたしはビツクリしました。じゃ口から水がでないなんて考えたことがなかったからです。こわいなと思います。水がないとあたしたちは、生活ができませんとしました。

わたしのお母さんは、雨水をつかってベランダのそうじをしたりまどふきもしています。わたしも今ど雨水をつかって、そうじしたいと思いました。

わたしが今からできることは、水をひつようい上につかわない、水をよごさないことだと思います。水は人だけじゃなくて、しよ

くぶつやどぶつ、虫たちにも大事なものだ
と思いました。

一ばん大せつなことは、「水は大事」とい
う気もちをおすれないことだと思いました。